

第 540 回 難研セミナー

第 113 回 難治疾患共同研究拠点セミナー

下記により難研セミナーを開催しますので、多数御来聴下さい。

記

日 時： 平成 27 年 10 月 23 日（金） 15:00～16:00

場 所： M&D タワー 13 階 大学院講義室 2

演 者： ^{かく} 郭 ^{しん} 伸 先生

（国際医療福祉大学臨床医学研究センター 特任教授
東京大学大学院医学系研究科 客員研究員・非常勤講師）

演 題： ALS の分子病態解析とそれに基づいた治療法の開発

要 旨：

筋萎縮性側索硬化症（ALS）は最も頻度の高い成人発症の致死性運動ニューロン疾患である。ALS 患者の大多数を占める孤発性 ALS では家族性 ALS に見出されている遺伝子異常をもつ例は極めて少ない一方、共通して、脊髄運動ニューロンに TDP-43 病理および RNA 編集酵素である adenosine deaminase acting on RNA 2（ADAR2）の発現・活性低下が観察される。ADAR2 のコンディショナルノックアウトマウス（AR2 マウス）はこの分子異常を再現するモデルであり、進行性の運動機能低下が観察される。その解析から、ADAR2 の低下が未編集型の GluA2（AMPA 受容体サブユニット）の発現を通じて、異常な Ca²⁺透過性 AMPA 受容体を発現させることで、運動ニューロンに TDP-43 病理および細胞死を引き起こすことが明らかになった。このことから、孤発性 ALS 患者運動ニューロンにおける ADAR2 低下は病因的意義を持つと考えられ、この細胞死カスケードの正常化による ALS の治療法開発を目指し、AR2 マウスを用いて治療開発研究を進めている。

連絡先： 神経病理学分野 秘書 （内線 5847）

共催： 分子神経科学分野